

大日堂舞楽（だいにちどうぶがく）

1. 提案区分：重要無形民俗文化財（民俗芸能：渡来芸・舞台芸）

2. 都道府県名：重要無形民俗文化財の所在地

秋田県：鹿角市八幡平

3. 保護団体：大日堂舞楽保存会

4. 指定年月日：昭和51年5月4日

5. 概要：

八幡平の大日堂で正月2日に演じられる芸能で、伝承では、養老年間（717～24）に都から下向した楽人によって伝えられた舞楽がその起源とされている。大里、谷内、小豆沢、長嶺の4集落がそれぞれ異なる舞を伝承しており、能衆と呼ばれる人々が世襲で舞を継承している。

4集落の能衆による「神子舞」と「神名手舞」、小豆沢の「権現舞」と「田楽舞」、大里の「駒舞」「鳥舞」「工匠舞」、長嶺の「鳥遍舞」、谷内の「五大尊舞」の9演目が伝承されており、仮面をつけたり採物を持つなどして笛や太鼓の囃子で舞われている。

大日堂の舞楽は、演じ手の所作などに中世の芸能の古風さをうかがわせ、また、当地で独自に変化をした諸相をみせ、特色がある。

6. 写真



「鳥舞」



「五大尊舞」